

保護者・地域等学校関係者の皆様への教育長メッセージ ②5
『卒業の日に 出逢いの日に』

毎年、卒業の日になると、私は自分が初めて教えた子どもたちを送り出した日のことを思い出します。要領の悪かった私は、全力であれもこれもやろうとはしましたが、鳴かず飛ばず。子どもたちに迷惑ばかりかけ、気が付けば卒業の日を迎えていました。「何もかも中途半端。本当に悔しい」、子どもたちを送り出すまで、卒業式は涙が止まりませんでした。別れと出逢いの季節。時間には限りがあり、別れがあるから次の出逢いを大切にしなければと思います。

今年もある小学校の卒業式に出席しました。子どもたちは無駄口もなく、整然とした態度でした。校長先生から「逆境を乗り越える」ことについて素晴らしいメッセージがありました。「思い通りにならない事を乗り越えていく」「逆境を自分の成長の糧にしていく」事の大切さを話してくださいました。コロナについて考えるならば、コロナといかに共存し、上手く付き合っていくかを考えねばなりません。まさにピンチはチャンスです。

四月の校長会議で私は次の四点を校長先生方をお願いしました。

- ① コロナ禍の中、子どもたち・教職員・保護者の命最優先を貫いてほしい。
- ② 「受容（相手を受け入れる）」と「傾聴（聴くこと）」を大切にしてほしい。
- ③ 「拙速（はやいが雑）」は「遅巧（ゆっくりだが丁寧）」よりすぐれている。
スピード感のある対応は、誠実さのあらわれであること。とにかく素早い対応を。反面、時には時間をかけた対応を。
- ④ 市教委と学校はお互いに「報告・連絡・相談・確認」を大切にすること
この四点に気をつけ、豊かな人間性と生きる力を身に付けた「津島っ子」を育てていきたいと考えています。

侵略・戦争について、毎日ニュースが伝えられています。フェイクニュースもあり、真実の姿は分かりにくくなっています。当事者にはそれぞれの言い分があるかもしれませんが、「自分と異なる意見は認めない」。この侵略・戦争を通しても一方の主義主張に固執し、物事の全体が見られなく事が怖いということがよく分かりました。多様な考えを認める、自分と違った考え方を認めることが民主主義の肝になると思います。民主主義には時間と手間がかかりますが、一番不満が少なくなる方法だと思います。ベストではないがベターな方法を探す。その意味で学校教育（人権教育）では「多様性の理解（みんな違ってみんないい）」が大きな目標となると思います。津島市の人権教育目標です。

土筆の子辞令受け取る朝となる

令和4年4月4日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視